シラバス参照

タイトル「**2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー			
科目名	危機管理学研究演習Ⅲ		
担当教員	福田　充		
対象学年	2年	開講学期	前期
曜日・時限	火２		
講義室	1302	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	―		
科目中分類	修士		
科目小分類	統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1 [意欲・経験・適性] 災害，テロ，国際紛争等，複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（20%） DP2 [学識・専門技能] 災害，テロ，国際紛争等，複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための，法学，政治学，国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（30%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（30%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ，自らの明確な考えをもとに，他者とコミュニケーションを確立する能力（20%）		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関わりました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省や内閣官房では新型インフルエンザ等のパンデミックについての有識者会議や委員会で、神奈川県の国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第1回～第15回）		
成績ターゲット区分	.		
科目概要・キーワード	■科目概要 危機管理学に関する修士論文を作成するために、その修士論文のテーマを確立し、危機管理学とリスクコミュニケーションに関する修士論文の確立するための実証研究の調査計画を決定し、その実施のための準備を行う。そしてアンケート調査やフィールドワークなど実証研究を実施する。これらの研究プロセスを通じて，学識・専門技能に加え，判断力・思考力・表現力，更には主体性・計画性・協働性等の汎用的能力を開発することを目的とする ■キーワード： リスクコミュニケーション、危機管理学、社会調査、統計分析、プレゼンテーション		
授業の趣旨	■副題 オールハザード・アプローチによるリスクコミュニケーション研究の計画と実施 ■授業の目的 修士論文の制作のために、この演習Ⅲでは個人研究テーマに基づいて、問題意識を熟成させることで研究対象とその研究方法を設定し、検証すべき仮説を構築することから始めます。その後、リサーチクエスチョンと仮説を確立して、それを実証するためのアンケート調査やフィールドワークなどの調査計画を確立します。その調査計画に基づき、社会調査を実施します。 危機や社会課題を学術的に探求し、危機管理を解明し社会に普及させる「指導的人材」、危機管理の実践的知識を有する「高度専門職業人」を養成する人材育成に資する演習を実施します。 ■授業のポイント 修士論文の制作のための個人研究計画を確立するために、受講生全員で毎回発表し、議論と指導を繰り返すことにより、よりよい研究計画を確立します。		
総合到達目標	■危機管理学及び法学に関する問題を論理的・批判的に考究することができる。 ・危機事態におけるリスクコミュニケーションの諸問題を認識し，課題を発見して認識することができる（第１回～１５回）。 ・危機事態におけるリスクコミュニケーションを，自己の経験や目標と関連付け，学修意欲につなげることができる（第１回～１５回）。 ■危機管理学と法学に関する問題を科学的な手法によって分析することができる。 ・リスクコミュニケーションにおける課題について事例やデータを体系的に収集することができる（第１回～１５回）。 ・リスクコミュニケーションにおける課題について，批判的に分析することができる（第１回～１５回）。 ■危機管理学と法学に関する問題を論理的に解釈し，その成果を適切に表現することができる。 ・リスクコミュニケーションに関する事象や理論を適切に理解し，活用可能な知識として取り込むことができる（第１回～１５回）。 ・リスクコミュニケーションに関する課題に対して，解決策を構築するための論理的な思考を展開することができる（第１回～１５回）。 ・リスクコミュニケーションに関する課題に関して，社会に政策提言するための口頭又は文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第１回～１５回）。		
成績評価方法	■授業参加度・演習内で発表する個人研究計画発表レジュメ （１５回）80% （DP3，DP4） 第1回目： 修士論文計画案発表 （20%） 第2回目： 先行研究レジュメ発表 経過報告第1回 （10%） 第3回目： 調査計画レジュメ発表① 経過報告第2回 （10%）		

	第4回目： 調査計画レジュメ発表② 経過報告第3回 （20%） 第5回目： 修士論文計画レジュメ 発表 （20%） （評価の観点） 修士論文における個人研究計画レジュメを作成し、各自が発表を行います。その研究テーマと研究内容、研究計画の立て方の厳密さ、的確さと、プレゼンテーションの手法のレベルを評価します。 （フィードバックの方法） 各自の研究発表後に、演習中に評価・議論を行います。 ■社会調査統計分析のためのSPSS講義とデータ分析演習 （3回）20% （DP1，DP2） 修士論文の個人研究で行う社会調査のデータ分析の手法を身につけるための演習を実施します。 （評価の観点） 社会調査のデータ分析の手法の理解度と分析能力の到達度について評価します。 （フィードバックの方法） 演習中に適宜指導をしながら繰り返し説明を行います。
履修条件	リスクコミュニケーションに関する修士論文を作成する意思があること。
履修上の注意点	教科書・参考書を積極的に読み，主体的に学ぶ姿勢が求められる。

授業内容

回	内容
1	①授業テーマ 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究的アプローチ ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーション研究に基づいて修士論文を作成すること、またそれを社会調査に基づく実証研究的アプローチによって実施することの意義と課題について考察します。本演習では担当教員のこれまでの実務経験を活かしながら研究指導を行います。こうした社会での実務と研究活動がどのように関連してくるかを説明します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 教科書『リスクコミュニケーションとメディア~社会調査論的アプローチ』（北樹出版）の序章を読む。 ④復習（120分） 自分自身の修士論文の研究テーマについて資料を収集し、検討する。
2	①授業テーマ 危機管理学における研究テーマの設定と問題意識 ②授業概要 危機管理学において求められる研究テーマの立て方と、問題意識のあり方について講義し、どのように個人研究を始めて、どのような作業を進めればよいかを説明し、議論します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 教科書『リスクコミュニケーションとメディア』の第1章を読む。問題意識の立て方について考える。 ④復習（120分） 自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、研究テーマと問題意識についてのレジュメを作成する。
3	①授業テーマ 第1回発表①「修士論文の研究テーマと先行研究」 ②授業概要 自分自身の修士論文における「研究テーマと先行研究」について、受講生がひとりずつ発表レジュメにもとづいてプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 教科書『リスクコミュニケーションとメディア』の第2章を読む。問題意識の立て方と先行研究について考える。 ④復習（120分） 自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、先行研究の収集と整理を行う。
4	①授業テーマ 実証研究のアプローチと社会調査の手法 ②授業概要 危機管理学における実証研究的アプローチの意義と、社会調査の手法について学び、議論します。社会調査としてのアンケート調査、内容分析、ヒアリング・インタビュー調査、実験、フィールドワークの手法について学び、その①調査対象者の決定、②標本抽出法の確立、③調査実施方法の選定について学びます。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 教科書『リスクコミュニケーションとメディア』の第3章を読む。社会調査の計画と調査法について考える。 ④復習（120分） 自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、社会調査の実施方法について検討する。
5	①授業テーマ 修士論文における社会調査法の検討と確立 ②授業概要 修士論文の実証研究において実施するアンケート調査やフィールドワークなどの調査研究方法について検討し、その手法を確立します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 統計データ分析のためのSPSSとExcelの利用方法について勉強する。 ④復習（120分） 自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、研究対象についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
6	①授業テーマ 修士論文の調査方法の確立と仮説構築 ②授業概要 修士論文における実証研究で検証するリサーチクエスチョンと理論仮説・作業仮説を検討し、確立します。そこで、リサーチクエスチョンの構築と、理論仮説・作業仮説の方法を学び、身につけます。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての世界の研究書や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 収集した先行研究を読解し、研究計画発表レジュメとして整理する。
7	①授業テーマ 修士論文の調査研究計画の発表

	②授業概要 　修士論文で実施する実証研究の調査計画について研究レジュメを作成し、発表します。その発表に基づいて、調査計画の内容について具体的に指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　自分自身の修士論文のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 　自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、研究対象についてのプレゼンテーション用レジュメを作成する。
8	①授業テーマ 　修士論文の実証研究における調査の準備 ②授業概要 　修士論文の実証研究で実施するアンケート調査、フィールドワークなどをどのように実施するか、その条件や調査対象を具体的に選定し、その調査依頼や協力機関への協力依頼の実施について考察し、検討します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　教科書『リスクコミュニケーションとメディア』の第3章と4章を読み、研究方法と仮説の立て方について考える。 ④復習（120分） 　自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、研究方法と仮説についてのプレゼンテーション用レジュメを作成する。
9	①授業テーマ 　修士論文の調査計画レジュメ発表　第２回発表 ②授業概要 　修士論文のための個人研究計画レジュメを作成し、第1回目からさらに内容を深化させて調査計画について発表し、発表後に受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　自分自身の修士論文のための先行研究としての研究書や学術論文を図書館で収集し、読んでレジュメにまとめる。 ④復習（120分） 　自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
10	①授業テーマ 　アンケート調査票の作成 ②授業概要 　修士論文で実施する実証研究で使用するアンケート調査票、内容分析コーディング票など、実際の調査票を作成し、その調査票について指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　自分自身の修士論文のための先行研究としての研究書や学術論文を図書館で収集し、読んでレジュメにまとめる。 ④復習（120分） 　自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
11	①授業テーマ 　アンケート調査票の作成と変数の設定 ②授業概要 　修士論文の実証研究で実施するアンケート調査票を作成し、そこで使用する変数の検討、尺度構成などを検討し、指導します。調査実施後に行うデータクリーニングやデータ入力作業、データのワークシート作成のための基本を学び、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　自分自身の修士論文のための先行研究としての研究書や学術論文を図書館で収集し、読んでレジュメにまとめる。 ④復習（120分） 　自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
12	①授業テ 　修士論文の調査計画レジュメ発表　第３回発表 ②授業概要 　自分自身の修士論文のための個人研究計画レジュメを発表し、発表後に受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　自分自身の修士論文のための先行研究としての研究書や学術論文を図書館で収集し、読んでレジュメにまとめる。 ④復習（120分） 　自分自身の修士論文のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
13	①授業テーマ 　修士論文の実証研究の実施 ②授業概要 　修士論文の実証研究で行うアンケート調査の準備と実施を行います。アンケート調査やフィールドワークを実際に実施し、調査による1次データを収集します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　自分自身の個人研究のための先行研究としての研究書や学術論文を図書館で収集し、読んでレジュメにまとめる。 ④復習（120分） 　アンケート調査を実施したのち、データの編集作業を実施する。
14	①授業テーマ 　修士論文の実証研究のデータ分析作業の実施 ②授業概要 　修士論文の実証研究において実施したアンケート調査などのデータを、統計ソフトSPSSを用いて分析します。単純集計や、多変量解析を実施して、分析結果をまとめる作業を指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　統計ソフトSPSSによるデータ分析方法について予習する。 ④復習（120分） 　修士論文で使用するデータを分析結果からまとめる。
15	①授業テーマ 　演習のまとめと総括 ②授業概要 　修士論文のテーマにそって実施した実証研究のアンケート調査などのデータ分析結果を通して、仮説を検証し、調査結果をとりまとめて考察します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 　SPSSを用いて分析した単純集計結果や多変量解析の結果をとりまとめる。

	④復習（120分） 調査分析結果を修士論文の本文として原稿執筆する。
関連科目	リスクコミュニケーション特講、危機管理学方法論１（リスクリテラシー）
教科書	福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）. 福田充『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）. その他、リスクコミュニケーションに関する海外の英語文献の研究書・論文を適宜教科書として指定する。
参考書・参考ＵＲＬ	福田充『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』（慶應義塾大学出版会）. 福田充『メディアとテロリズム』（新潮新書）. 福田充編『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）. その他、リスクコミュニケーションに関する海外の英語文献の研究書・論文を適宜参考書として指定する。
連絡先・オフィスアワー	fukuda.mitsuru@nihon-u.ac.jp オフィスアワーについてはオフィスアワー一覧を参照してください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%; パブリックセキュリティ25%; グローバルセキュリティ25%; 情報セキュリティ25% ■危機管理と法学のバランス 危機管理90%; 法学10%

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.